

AIが「試して終わり」になる 会社に共通すること PoC止まりを脱出する5つのステップ

中小企業基盤整備機構の調査（2026年3月）によると、AIの導入を試みた中小企業の約半数がPoC段階でプロジェクトを停止しています。この資料では、「試して終わり」になる3つのパターンと、本番移行に成功した企業が実践する5つのステップを解説します。

株式会社DnD（DnD Inc.） | <https://dnd-inc.jp/>

この資料の要点

- AIのPoC止まりの主な原因は「本番移行を前提にしていない設計」「成功基準の不在」「現場の置き去り」の3つ。
- 本番移行に成功する企業は、開始前に「何が確認できれば本番化するか」を決め、現場担当者を共同オーナーとして巻き込んでいる。
- 「全社に広げる」前に「一業務・一部門で動かし続ける」ことが定着の第一歩。月次の振り返りサイクルが鍵。

PoC止まりになる3つのパターン

パターン①「実験」として設計し、本番移行の条件を決めていない

「まず試してみよう」で始め、「どうするか」を後で話し合う進め方。PoCを「本番化の判断材料を集める場」と位置付けず、「実験」として終わると自然消滅します。

パターン② 担当者だけが試して、現場・経営者が蚊帳の外

IT担当者が単独でAIツールを試し、現場担当者や経営者を巻き込まないまま進めるパターン。本番移行の際に「なぜ使わないといけないのか」という抵抗と、「費用対効果が見えない」という承認拒否が起きます。

パターン③ 成功の定義が曖昧なまま終了してしまう

「業務を効率化する」という目標は測定できません。「処理時間を月△時間削減する」という形で定量化されていないと、PoCの効果が説明できず本番化の判断が感覚に依存します。

本番移行に成功する5つのステップ

STEP 1

最初から「本番移行を前提に」PoC設計する

PoC開始前に「何が確認できれば本番化を決定するか」「どの部門・業務から始めるか」「移行に必要な技術的作業は何か」を整理しておく。

STEP 2

「これだけ改善されれば本番化する」と先に決める

「週△時間以内に処理できれば本番化」「ミス率を現状比50%以下にできれば導入」など、成功基準を定量的に設定し、関係者全員で合意しておく。

STEP 3

業務の当事者をプロジェクトの共同オーナーにする

日常的にその業務を行っている担当者に「どこが不便か」「どういう出力なら使えるか」を最初から聞きながら設計する。担当者が「自分たちで選んだ」と感じる事が定着の鍵。

STEP 4

適用範囲を一つの業務・一部門に絞って成功体験を作る

「最も課題が明確で、効果が測定しやすい業務」から始め、小さな成功事例を作る。「あの部署で月△時間削減できた」という事実が他部門への横展開の説得力になる。

STEP 5

振り返りのサイクルを月次で組み込む

本番移行後、月に一度「実際に使えているか」「効果は出ているか」「改善したいことはあるか」を確認するサイクルを設ける。30分でよい。このサイクルがないと半年後には使われなくなる。

本番化の成功基準 設定チェックリスト

- ☐ PoC開始前に「この数字が達成できれば本番化する」という基準を決めている
- ☐ 成功基準は関係者全員（担当者・経営者）が合意している
- ☐ 現場の業務担当者がPoC設計に参加している
- ☐ PoCの対象業務を一つに絞っている
- ☐ 本番移行後の振り返りサイクル（月次）を事前に設定している

□ 効果を金額換算で経営者に説明できる準備がある

株式会社DnDでは、AI導入のPoC設計から本番移行・定着支援まで、中小企業向けに伴走支援しています。

「AIを試したがそのまま終わってしまった」「PoC後の本番移行で悩んでいる」という方は、お気軽にご相談ください。ご相談・お見積りは無料です。

<https://dnd-inc.jp/contact.html>